

論文の要約

報告番号	① 乙 第1267号	氏名	山崎 宙
学位論文題目	Impact of Indoxyl Sulfate, a Uremic Toxin, on Non-Culprit Coronary Plaque Composition Assessed on Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound		
論文の要約			
<p>【背景】尿毒症毒素は冠血管危険因子の重要な因子であることが明らかである。今回の研究の目的は静脈血清中の尿毒症毒素濃度と後方散乱波解析による血管内超音波法 (IB-IVUS) を用いて解析した冠動脈プラーク組織性状との関連性を評価することである。</p> <p>【方法】安定狭心症に対して経皮的冠動脈形成術を施行する予定の患者に対して IB-IVUS を施行した。今回の研究では中等度狭窄を有する非責任病変を解析対象とし、インターベンションを施行した部位より 5mm 以上離れた部位を選択した。IB 法を用いた血管内超音波画像 3 次元再構成した後、冠動脈プラーク全体に対する脂質成分比率、線維性成分比率を解析した。また尿毒症毒素としてはインドキシル硫酸、非対称性ジメチルアルギニン、パラクレゾールの血清濃度を測定した。</p> <p>【結果】推定糸球体濾過率は血清インドキシル硫酸濃度と相関した ($p=0.04$) が、非対称性ジメチルアルギニン、パラクレゾールとは相関しなかった。脂質成分比率は血清インドキシル硫酸濃度と正の相関を示した ($p=0.04$) が、非対称性ジメチルアルギニン、パラクレゾールとは示さなかった。また線維成分比率も血清インドキシル硫酸濃度と負の相関を示した ($p=0.03$) が、非対称性ジメチルアルギニン、パラクレゾールとは示さなかった。多変量解析では、各尿毒症毒素のうちインドキシル硫酸のみが他の冠動脈危険因子と独立して脂質成分比率 ($p=0.04$)、線維成分比率 ($p=0.04$) の予測因子になりうることを示された。</p> <p>【結論】尿毒症毒素の中で血清インドキシル硫酸は IB-IVUS 解析での脂質成分に富む冠動脈プラークの同定、観察に有用なバイオマーカーとなる可能性が示された。</p>			